

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

|          |   |       |    |
|----------|---|-------|----|
| 会議の名称    | 博物館協議会  |       |    |
| 開催日時     | 24年7月20日（金） 午後3時00分～午後5時30分   |       |    |
| 開催場所     | 八ヶ岳総合博物館 研究室  |       |    |
| 出席者      | 浜委員長 佐藤副委員長 浅川委員 河西委員 篠原委員 仙石委員<br>名取委員 花沢委員 原田委員 福田委員 藤森委員<br>両角 牛山教育長 鵜飼文化財課長 若宮八ヶ岳総合博物館長<br>田村伸長官守矢史料館長 大谷博物館係長 中村考古館係長<br>柳川博物館係主査  |       |    |
| 欠席者      | 関塚  |       |    |
| 公開・非公開の別 | 公開・非公開  | 傍聴者の数 | 0人 |
| 議題及び会議結果 |   |       |    |
| 発言者      | 協議内容・発言内容（概要）   |       |    |
| 牛山教育長    | 1 教育長あいさつ<br>今回の協議では、市民プラン見直や八ヶ岳総合博物館（以下、博物館）の展示の更新や茅野市における科学教育の振興に関する基本計画の策定について協議してもらうので、従来とは違った視点で審議してもらいたい。八ヶ岳総合博物館は20年以上経過しており、展示の変更がこれまでに行われず、現状に合わなくなってきた。現在の博物館のあり方が変わっている。全国的に博物館の形態として博物館をきっかけに学習するという方向になっている。博物館のあり方については、昨年度博物館協議会の専門部会で答申を受けている。これにより、博物館をリニューアルするというところで歩み始めている。以上2点のことで協議してもらいたい。 |       |    |
| 大谷博物館係長  | 2 委員の委嘱<br>両角新委員に教育長から委嘱書を交付。<br>3 組織機構の一部変更<br>説明  |       |    |
| 鵜飼文化財課長  | 4 委員・職員の自己紹介<br>5 協議<br>・市民プランの見直しにおける意見交換について<br>各館の市民プランについては、入館者が右肩上がりに増加すると当初考えて作成されているが、最近では減少傾向にある。そのため見直しをしなければならない。   |       |    |
| 中村考古館係長  | 尖石縄文考古館（以下、考古館）の市民プランの説明  |       |    |
| 浅川委員     | 市民プランの見直しを行うにあたり、今まで行ってきたことを総括しないと、今後どのように展望していくのかがわからないのではないかと。  |       |    |
| 浜委員長     | 市民プランの「2 まちづくりの目標指標」の「計画策定時または新規設定時の状況」の「34,944人」の数字の意味はどのような意味か。   |       |    |
| 中村考古館係長  | 計画を作成した時の数字である。昨年度は例年福島に行くお客さんが長野県に来たので増加したが、今年は減少した。イベントを行い、目標の50,00人に近づけていきたい。  |       |    |

|         |  |
|---------|--|
| 篠原委員    | 公民館で多くのサークルが活動している。公民館はいつも予約するのが大変なほどである。これらサークルの活動を、3館に振り向けられないか。   |
| 浜委員長    | 博物館が人生の休息地になっていない。一般市民がなかなか利用しないのは、浸透していないからである。何か市民へのPRができないか。各館とも何を目玉にするのかというのを説明してもらいたい。  |
| 鵜飼文化財課長 | 考古館では、青少年自然の森を含めた縄文の森構想というのがある。20年くらいかけて、縄文の森構想の基礎ができればいいと思っている。構想が整理されれば利用されるのではないか。尖石縄文考古館は文化財、青少年自然の森は社会教育と別に設立されたが、宿泊して縄文を体験できるのは、全国的にみてここだけだと思う。魅力的な環境なのでこれが目玉になるのでは。 |
| 名取委員    | 考古館周辺は、植生や鳥も多いので魅力的な所だと思う。昨年度、青少年自然の森では史跡公園と青少年自然の森自然のガイドブックを発行したのはいいことだと思う。青少年自然の森の人数が減少しているというが、数字だけでは測れない。  |
| 鵜飼文化財課長 | その通りである。教育は数字では測れない。7,000人くらいで推移しており、これ以上の人数は受け入れられない。数字で測られるのはつらいところだ。  |
| 佐藤委員    | 学習会員になったのは、生涯学習に力を入れていることを教育長から聞いたからだ。つくば市の植物園は65歳以上を無料にし、館内にも食事ができる場所を設けるなどして、敷居を自由にしている。   |
| 浜委員長    | 考古館の樹木や植物にプレートが掛っているか。   |
| 鵜飼文化財課長 | 樹木にはプレートを掛けています。樹木はプレートを掛けても持っていけないが、草は付けると持っていかれてしまう。   |
| 名取委員    | 全国的には名前のプレートだけではなく、プレートにクイズを掲載するなど、工夫している。プレートを設置するには工夫が必要である。   |
| 鵜飼文化財課長 | 工夫をしていきたい。   |
| 大谷博物館係長 | 博物館の市民プランの説明   |
| 仙石委員    | 考古館で木に名前をつけるとかいうのは、考古館とはかけ離れているような気がする。博物館は収蔵庫に多く鳥のはく製があるが、色あせているようで管理がなされていないようだ。標本や剥製を今後収蔵していくことになれば、収蔵庫を広く取らなければならないが、今後どのようにする方針か。                                     |
| 大谷博物館係長 | 整理されているものもあるが、台帳と民具で対照できないものもあり、なかなか整理が進まない状況である。写真フィルム・図書は整理されている。今後、自然の研究も行うことが答申されているが、標本などを増やすということになれば、新たな収蔵空間が必要となるだろう。  |
| 浜委員長    | 収蔵庫は見せるようになっていないか。郷土館の時は展示収蔵であった。博物館を建設するときは、見せる収蔵庫だったはずだが、できなくなった。  |
| 花沢委員    | かこさとし展を開催するのに、ねじばなの会の機織りが1階の整理工作室や2階の展示室に移動してしまった。実演を見せるために機織りをしているのに、人目に付かないところだと張り合いがない。体験を行う2階の展示室は暗く、糸の色がわからないほどだ。これらのことが不満であり、場所がない。                                  |

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 大谷博物館係長<br>福田委員<br>大谷博物館係長<br>福田委員 | 場所については、ねじばなの会の役員と話し合っ<br>て決定した。<br>機織りを行う場所が戻ることはないか。<br>今後ねじばなの会の役員との意見交換の中<br>で決めていきたい。<br>今後、展示を行うときは、スペースを考<br>えて展示を行ってほしい。<br>機織りをどかして行うのをやめてほしい。   |
| 若宮博物館長                             | 市民が日常的に活動していることは必要だ。<br>今後、スペースについては考えていかな<br>ければならない。将来的には市民が利用<br>して高めていくことが重要である。市民<br>が活動できるスペースを確保していかな<br>ければならない。もう少し待ってほしい。   |
| 両角委員<br>佐藤委員                       | 資料が整理できるのは喜ばしいことだ。<br>整理に子供も加えられないか。<br>自然観察については自主運営に任せると<br>ある。税金を使用して運営しているのに<br>、バスハイクについては市民に公開され<br>ていないのはおかしい。   |
| 福田委員<br>佐藤委員<br>福田委員               | バスハイクの時のバスには税金を使っ<br>て行っているのか。<br>バスの使用は個人が出している。<br>税金を使っているわけではない。自然観<br>察会はなぜ八ヶ岳のことをやらずに、白<br>馬など茅野市街にバスハイクを行うの<br>か。  |
| 仙石委員<br>牛山教育長                      | 今年守屋山ですみれを見るイベントを行<br>ったが、人が集まらなかった。<br>現在の博物館の問題はスタッフが不足し<br>ていることだ。平成29年度までには最<br>大限解決されるように、現在プランニ<br>ングを行っている。  |
| 柳川博物館主査<br>浜委員長                    | 神長官守矢史料館（以下、史料館）の市<br>民プランの説明<br>諏訪大社上社前宮から高部・神宮寺に<br>かけての地域は諏訪の発祥の地である<br>ということアピールするような展示をし<br>てはどうか。   |
| 田村史料館長                             | 大祝家墓地や高過庵へ行く沿路整備等<br>を行い、来館者には諏訪信仰を伝える<br>説明を行っている。   |
| 柳川博物館主査                            | 史料館にいる館長をはじめとする職員<br>は、来館者に解説を行っており、諏訪<br>の神話については対応している。また<br>、「守矢史料館周辺を歩く」や「前宮周<br>辺を歩く」といったイベントを行っ<br>ており、諏訪信仰を解説するイベン<br>トを行い対応している。  |
| 鵜飼文化財課長<br>牛山教育長                   | 茅野市の文化財で大事なものは、縄文<br>時代と前宮周辺の諏訪神社に関わる<br>ことである。教育委員会としては、地<br>元の文化財整備に協力していかなけれ<br>ばならない。そのため、基礎的な研究<br>をしていかなければならない。<br>史料館は大人の博物館に偏っているの<br>が問題である。しかし、子供に関わ<br>れない特殊事情がある。また、諏訪<br>信仰で来る来館者もいるが、大半は<br>藤森建築を求めてくる人がいる。そ<br>のような特殊事情も理解していただき<br>たい。 |
| 篠原委員                               | 各館は各区の公民館動を取り込んで活<br>動ができないか。公民館活動では入<br>館料減免になったと思うが。  |
| 鵜飼文化財課長                            | 減免になる。<br>・先進地視察について  |
| 若宮博物館長<br>浅川委員                     | 視察を行うとすれば10月で行いたい。<br>事務局一任で。   |
| 大谷博物館係長<br>若宮博物館長<br>浜委員長          | 職員が運転することになるので日帰<br>りで。<br>日程としてはウィークデーか土・日<br>曜日か決められないか。<br>土曜日というものか。事務局の方で<br>決定していただきたい。   |

|                 |   |
|-----------------|---|
| 大谷博物館係長<br>福田委員 | <p>・茅野市八ヶ岳総合博物館の展示の更新及び茅野市における科学教育の振興に関する基本計画の策定について</p> <p>内容説明</p>  |
| 鵜飼文化財課長         | <p>博物館協議会専門部会委員の人選についてだが、全般的にもものが見える人を入れた方がいいと思う。専門家だけだと自分の専門のことだけ押し出すということになってしまうので困る。また、なぜ昆虫の専門家を入れないのか。</p>  |
| 浅川委員            | <p>そのとおりだ。前回の専門部会は、思いだけでまとまらなかった。職員がまとめて全体的な統括していかなければならない。委員の先生たちにも、展示設計ができるように意見を言うてもらいたい。</p>  |
| 若宮博物館長          | <p>考古館と史料館の来館者のターゲットは明確であり、展示物も明確である。博物館だけは展示物が明確ではない。来館対象者によって展示物が異なると思う。</p>  |
| 浜委員長            | <p>検討してもらいたいことが2点ある。</p> <p>ここは総合博物館である。人文・科学・自然・文芸4点で「総合」だと考えている。自然がベースで、その上で茅野市の科学・文芸・歴史が発展したと考えている。</p> <p>現在岳麓文芸館のある場所は本来特別展示室である。現在、博物館には特別展示室がない。岳麓文芸館（以下、「文芸館」）は当初、別に施設を建設する予定だったようだが、とりあえず総合博物館におこうということで設置された。その後平成12年度から一度も文芸館建設の話はない。それならば、文芸館を博物館に取り込んで1分野にしていきたい。別のところへ建設するという話は、そういう話が起きてきたら検討すればよい。特別展示の活動をするため、館内のどこへ持っていけばいいのかを専門部会で検討することを了承してほしい。</p> <p>展示更新については増設は難しい。現在のジオラマを生かしながら新知見を加えて展示変更を行うことを了承してもらいたい。</p> |
| 鵜飼文化財課長         | <p>4分野はこうだというのではなく、討議した方がよいのではないかと文芸館については白紙に戻して。</p>   |
| 牛山教育長           | <p>白紙に戻すわけにはいかない。文芸は4つの柱の1つになりうるのではないかと。</p>  |
| 名取委員            | <p>答申で不明確だったのは文芸館のことだった。展示変更の分かれ目は文芸館をどうするかということである。文芸を展示の1コーナーとすればいいのではないかと。</p>   |
| 篠原委員            | <p>ここが総合を名乗っているのは、開館当初からの理念である。人間の営みを展示するということは重要である。館長が言っていることはもっともである。博物館のあり方、展示の方法といったものもリニューアルすることも期待している。</p> <p>八ヶ岳山麓の人たちが貧しいながらも文芸を語ったということを示すのが、文芸館の最初からの理念だったと記憶している。それだから、博物館の一部門としてもいいのではないかと。</p>   |

